

(別紙様式1)

平成24年度 学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立峰山中学校〕

| 学校経営方針(中期経営目標) | | 前年度の成果と課題 | 本年度学校経営の重点(短期経営目標) |
|--|---|---|--|
| <p>【教育目標】 確かな学力を身につけ、こころ豊かで、たくましく主体的に生き抜く生徒の育成</p> <p>【めざす学校像】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒にとっては魅力ある学校 家庭、地域社会にとっては開かれた学校 <p>【めざす生徒像】</p> <ul style="list-style-type: none"> みんなに心のこもった挨拶ができる生徒 ねばり強く取り組むたくましい生徒 優しく人の気持ちがわかる生徒 真面目に意欲を持って生き生きと活動する生徒 <p>◎ 確かな学力の育成 ◎ 豊かな心の育成 ◎ 開かれた学校づくり</p> | | <ul style="list-style-type: none"> ○ 学力課題の分析に基づいた授業の実施と校内研究会を開催し、第3学年では学力が向上した。 ○ 週末課題の充実、補習・補充学習を実施し、基礎学力の向上が図れた。 ○ 京都式少人数授業を実施し、丁寧な指導を行うことで、第3学年の英語・数学の学力が大きく伸びた。 ○ 不登校生徒への組織的対応で好転した生徒が増加した。 ○ 多様な指導方法による道徳授業を実施した。 ○ 早期発見・組織的指導により問題事象が減少した。 ○ 積極的な学校公開、情報発信に取り組んだ。 △ 小中学校の指導の連続性・系統性が十分機能していない。 △ 低学力生徒への指導、家庭学習の定着、意欲・関心を高める指導方法改善が必要である。 △ 不登校生徒の解消と未然防止への取組が一層必要である。 △ 人権意識・規範意識を醸成する指導の充実が必要である。 △ 個別の支援計画による生徒への具体的な指導が必要である。 | <p>【小中一貫教育研究モデル校の研修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小中一貫教育推進協議会の組織体制を確立する。 ・ 峰中ギャップを町内全教職員が理解し、4部会の取組の充実を図る。 <p>【確かな学力の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教師の授業実践力の向上を図る。 ・ 言語活動の充実、家庭学習習慣の確立を図る。 ・ 総合的な学習の時間の内容を一層充実させる。 ・ 朝読書等読書活動の推進を図る。 <p>【豊かな心の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 道徳教育を根底にすえた教育活動を展開する。 ・ 人権・規範意識の醸成を図る。 ・ 不登校・いじめの未然防止のため組織的計画的な取組を進める。 ・ 健全な食生活を目指し食育を推進する。 <p>【開かれた学校づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校・地域・家庭の連携を一層強化する。 ・ 家庭の教育力を高めるための活動を進める。 |
| 評価項目 | 重点目標 | 具体的方策 | 成果と課題(自己評価) |
| 教育課程 学習指導 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習指導要領への対応を的確に行う。 ・ 指導方法の工夫改善により学習意欲の向上を図る。 ・ 学習規律を確立させると共に、家庭学習の充実を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 小中一貫「授業づくり部会」で、小中間の指導方法の連続性を研究する。 ・ 学習指導要領完全実施 ・ 年間指導計画を見直すとともに、授業時数の確保を図る。 ・ 各種テスト結果の分析に基づき、授業の在り方や補習・補充学習、小テストや繰り返し学習等の工夫を行う。 ・ 週末課題や日々の宿題の充実を図る。 ・ 少人数授業(数学・英語)を効果的に実施する。 ・ 校内授業研究会を実施し授業実践力を高める。 ・ 生徒の学習状況を毎週交流・点検する。 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 小中一貫「授業づくり部会」で2回授業研究会を行い、「学びの共同体」等の指導方法の連続性が広がった。 ○ 学習指導要領への対応が的確にできた。 ○ 少人数授業、習熟の程度に応じた授業は分かりやすいという生徒が多く、意欲が向上した。 ○ 学習状況等の交流を行い具体的な指導方針を立てたことで、授業規律は確立している。 △ 家庭学習の充実に向けて、宿題等の出し方に工夫改善が必要である。 |

| | | | |
|---------------|--|---|---|
| 生徒指導 | <ul style="list-style-type: none"> 生徒の内面に迫る指導を行い問題事象の減少を図る。 生徒の実態を早期に把握し未然防止に努める。 生徒の主体的な取組を進め自己肯定感を育てる。 保護者の教育に関する悩みに丁寧に対応する。 関係諸機関との連携を進める。 | <ul style="list-style-type: none"> 小中一貫「生徒指導部会」「不登校部会」で小中間の指導方法を統一する。 生徒とのふれあいの時間を確保し、学級・学年経営及び部活動指導の充実を図る。 問題事象は、報告・連絡・相談を徹底し、毎日の生徒指導部会及び学年会で即対応をする。 不登校生徒については毎週の教育相談部会やケース会議で実態を把握・分析し、具体的な方針を立て行動する。 全校集会、学年集会、生徒会で生徒の動きを作る。 警察、児童相談所、京丹後市等関係機関と連携する。 | <ul style="list-style-type: none"> 部活動は全教職員で早朝から指導し、生徒保護者から信頼を得るとともに、生徒の自信を高めた。 アンケートや日々の実態把握、組織的な指導により、問題事象の重度化を改善できた。 不登校など長期欠席者を減少させることができた。 生徒会活動・学年委員長会活動等の充実により、生徒の意欲と主体性が向上した。 防犯教室等で生徒・保護者の規範意識を高めた。 △ 一部の生徒の善悪の判断力・行動力の育成を強化する。 △ 不登校生徒の解消への取組を更に進める。 |
| 健康（体育）・安全 | <ul style="list-style-type: none"> 保健教育を系統的に進める。 食育の推進を図る。 安全意識の向上を図る。 体力の向上を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> 保健学習、保健指導を計画的に進める。また、道徳・総合的な学習・特別活動との関連を図る。 教科等との関連を図った食に関する指導を推進する。 交通安全指導を徹底する。（交通教室、PTAとの連携） 避難訓練、震災救援活動講話を実施し安全意識を高める。 朝の練習、部活動の推進、体育授業の工夫等を進める。 | <ul style="list-style-type: none"> 給食マナーが向上し、感謝する心が育った。 地震・火災等への安全意識を高めた。 体力の向上と競技力向上に高い評価を得た。 △ 自転車の交通マナー向上に向けて工夫改善を進める。 △ 食育を教科と関連させて推進することが必要である。 |
| 進路指導 | <ul style="list-style-type: none"> キャリア教育を計画的に推進する。 説明会・進路相談の充実を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> 年間計画に基づいた系統的な進路指導を進める。 体験活動に基づき意識の向上と啓発を進める。 保護者向け・生徒向けの進路説明会を早期から行う。 二者・三者面談を早期に開催し充実を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> 各学年ごとの体験活動により勤労観が育った。 進路説明会や二者・三者面談を早期から実施し、生徒・保護者ともに意識が向上した。 |
| 小中一貫教育への取組 | <ul style="list-style-type: none"> 小中一貫教育推進協議会の組織体制を確立する。 峰中ギャップを理解する。 4部会の取組を充実する。 | <ul style="list-style-type: none"> 小中学校が目指す子ども像を作成して共通確認する。 2回の全体研修会を実施する。 授業づくり、生徒指導、不登校、交流部会で、小中の連続した指導を研究推進する。 | <ul style="list-style-type: none"> 9年間で目指す子ども像を作成し、次年度から各校の学校目標に位置付けることとした。 学びの共同体の授業を小中で導入できた。学校の決まりと不登校個票を小中学校で統一できた。 小学生の中学進学不安が減少した。（42.7%→29%） |
| 開かれた学校 | <ul style="list-style-type: none"> 地域や保護者に積極的な情報を発信する。 | <ul style="list-style-type: none"> 教育内容、生徒の活動等を保護者や地域に発信する。 地域へのボランティア活動を推進する。 ホームページ、学校便り、学級便り等を充実する。学校便りは地域回欄を実施する。 | <ul style="list-style-type: none"> 学校行事の参観、学校便りの発行、ホームページ等の更新により、保護者や地域に情報を提供できた。 △ ホームページの定期的な更新に努める。 |
| 次年度に向けた改善の方向性 | <p>◎ 小中一貫教育研究モデル校研究を学校経営の軸に据え、学力の充実・向上と心の教育の充実を図る学校経営</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 峰中校区目指す子ども像「自己肯定感を持ち、自分の将来を展望し、共に学ぶ子」の実現に向け、更に小中一貫教育を推進する。 2 学力向上プロジェクト、心の教育プロジェクトの活性化と、開かれら学校づくりの発展を図る。 3 平成25年11月20日の小中一貫教育研究発表大会を成功させる。 4 地域連携協働の推進組織の立ち上げと活用により、学校経営の充実を図る。 | | |

(別紙様式1)

平成24年度 学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市大宮中学校〕

| 学校経営方針(中期経営目標) | | 前年度の成果と課題 | 本年度学校経営の重点(短期経営目標) | |
|-------------------------|---|--|---|---------------|
| 1 学習意欲を高める授業の充実と家庭学習の定着 | 2 進路を切り拓く能力と実行力の育成 | 3 健康な体と豊かな心の教育の充実 | 4 信頼される学校づくり | 5 教職員の資質能力の向上 |
| | | ○授業改善に向けて授業研究等に工夫努力し、学力向上につながる取組が進んだ。生徒のわかりやすい授業の評価は22年度70%→23年度81%とプラス評価につながった。 ○保護者に学校の課題と方策をオープンにして協力を要請、生徒には考えさせる指導の展開で集団の意識改革を図った。 ○校内研修フィードバック化が充実し、教職員で共有化することと研修の意識改革を図ることができた。 △生徒指導に関わる学級経営力の向上と組織的な指導体制で迅速な対応を行う。 △不登校問題の改善に向けて、具体的な方策と実践を行う。 △若手教職員の人材育成を進める。 | 1 学力向上に向けた取組の推進を図る。 2 夢や希望をもって未来を拓く、進路指導の充実を図る。 3 生徒指導の充実を図る。 4 健康や体力の向上に努めさせ、心豊かな人間性を育む。 5 効果的な運営を目指した各分掌間の連携の強化を図る。 6 教職員の指導力向上を図る研修の推進 7 小・中・高連携の更なる推進に努める。 8 信頼され、開かれた学校づくりに努める。 | |
| 評価項目 | 重点目標 | 具体的方策 | 成果と課題(自己評価) | |
| 教育課程 学習指導 | ・効果的な学校運営の推進 ・学力の実態把握と向上 ・学ぶ意欲の向上 ・思考力、判断力、表現力の育成(言語の力・活用する力) ・指導方法の研究と改善 ・授業規律の確立 ・家庭学習習慣の確立 ・集団育成を基盤に学校生活の活性化の創造 | ・効果的な学校運営を推進するため、各分掌との連携強化を行い、教育活動の取組の充実を図る。 ・学校経営計画による総括と改善に向けた具体的方策の確認を行い、生徒達の切磋琢磨して学ぶ意欲の引き出しと教職員の教科指導の充実を図る。 ・「学力向上プラン」を基盤に家庭学習の習慣化に向けた日々の課題をやりきらせる指導の継続を行う。 ・全教科で「週間トライやる」の週末課題学習の取組を行う。 ・授業規律に関する指導の統一を図る。 ・生徒会活動の充実を図る。 ・集会、HR、SHRにおいて聞く・考える・話し合うことを重視し、生徒の生活改善と学校生活の活性化を図る。 | ○「学力向上プラン」の実践、家庭学習習慣の取組が推進できた。とくに、全教科が言語の力を育成するための週末課題を提示し、学習習慣の意識化につなげることができた。 ○わかりやすい授業の工夫などの外部研修を校内研修にフィードバックし、授業改善に向けた研究を推進した。生徒のわかりやすい授業の評価は、22年度70%→23年度81%→24年度80%である。 △学力向上につながる授業改善の取組は途上で、まだまだ研究・検討の余地がある。言語の力の育成と活用は、総合的な学習の時間発表会にその力を発揮することができたが、日常生活や授業の中での活用は不十分である。 △学力の定着・向上に向けた各教科の指導方法と取組を整理し、学習の手引きの活用と家庭学習の定着に生かす。 | |

| | | | |
|---------------|--|--|---|
| 生徒指導 | <ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導体制の充実改善 ・学級経営の充実を図る。 ・好ましい人間関係の育成を図る。 ・自らの課題を解決する意欲の育成を図る。 ・規範意識の向上を図る。 ・不登校の未然防止を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> ・きめ細かな指導体制を確立し、報告・連絡・相談を徹底し、具体的な方策をもって迅速な対応を行う。 ・学級経営、教科指導、部活指導などあらゆる場面で規範意識を向上させる指導の展開を行う。 ・アンケートを実施し、生徒の悩みや相談について把握し、生徒理解とともに丁寧な指導・助言を行う。 ・家庭、地域、校種間と連携した生徒指導の充実を図る。 ・定期的な教育相談部会を行い、現状維持ではなく一歩踏み出す方策を練り合い、指導を行う。 | <ul style="list-style-type: none"> ○保護者に学校の課題と方策をオープンにして協力要請、生徒には考えさせる指導の展開で集団の意識改革を図った。 ○不登校の改善に向けて、抱える指導・現状維持の指導から、一歩前に踏み出す指導は生徒の変容につながっている。 ○生徒指導の事象の確認、指導の方向性を共通理解する指示系統の充実改善を図る。 △生徒の規範意識の醸成、自他の人権尊重、社会性の育成や自己指導力を培う取組を行う。 △生徒指導に関わる学級経営力の向上を目指す。 |
| 健康（体育）・安全 | <ul style="list-style-type: none"> ・安全教育の充実 ・部活動の推進 | <ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練、交通マナー、登下校の安全、安心安全な学校生活について指導し、生徒自らの安全意識を高める。 ・異年齢の集団で、共通の興味関心をもって運動や文化の楽しさを体得させるため、日々の部活指導を大切にする。 | <ul style="list-style-type: none"> ○津波・地震の避難訓練は、初めてのものだったが、全校生徒が素早く高台に避難できた。事前事後の指導資料も充実していて安全意識を高めるのに効果的だった。 ○日々の部活指導を大切にし、生徒の達成感、充実感を高め、技術向上につなげた。 |
| 進路指導 | <ul style="list-style-type: none"> ・三年間を見通した系統的、計画的な進路指導の推進 ・目的意識を高める指導の充実 ・学力の向上 | <ul style="list-style-type: none"> ・職場体験、講話学習の実施、進路学習の充実を図る。 ・計画的な二者面談、三者面談の実施を行う。 ・進路情報の収集と進路資料の活用を行う。 ・放課後学習会と家庭学習課題の取組を行う。 | <ul style="list-style-type: none"> ○計画的な面談は、進路に対する生徒の意識を高めた。 ○家庭学習課題の指導は、生徒の学習意欲と家庭学習習慣の定着につながった。 △進路学習を充実させるために指導資料の整理を行う。 |
| 研修の充実 | <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の指導力向上を図る研修の充実 ・人権意識の向上と実践力の育成 ・学力向上の理論研究 | <ul style="list-style-type: none"> ・外部研修の内容を校内研修へフィードバックする。 ・身近な問題から人権意識を高め、実践的な力を育てる。 ・言語の力の理論研修を進め、全教科の学習と諸活動で言語の力を育て、思考力・表現力を高める。 | <ul style="list-style-type: none"> ○外部研修の校内研修フィードバック化が充実し、教職員で共有化することと研修の意識改革を図ることができた。 ○文科省指定の人権教育総合推進地域事業の研究を進めるにあたって小中で連携した取組や研修が進み、言語の力の理論研究や授業研究が進んだ。 △自他を尊重する意識の涵養を実践化していく。 |
| 小中一貫教育への取組 | <ul style="list-style-type: none"> ・人権教育総合推進地域事業の推進 ・教育活動の積極的な公開 | <ul style="list-style-type: none"> ・人権教育、学習指導、生徒指導に関する小中連携の研究を推進する。（相互の授業参観と研究会、合同研修会の充実） ・学校から地域へ発信、広報の充実を目指す。 | <ul style="list-style-type: none"> ○人権意識の涵養を図る取組が進んでいる。 ○校区の小中学校の先生同士の研修を深める事ができた。 △各学校の人権研究の進捗状況と検証が不十分である。 |
| 次年度に向けた改善の方向性 | <ol style="list-style-type: none"> 1 教職員の教科指導力・学級経営力・生徒指導力の向上を目指す。 2 人権教育の研究指定を基盤に学校改善を図る。（人権意識の涵養、言語の力の育成、進路実現、教育活動の充実） 3 全教科における質の高い学力の育成と教育活動の充実を目指す。 4 夢を持ちチャレンジする生徒の育成を目指す。 | | |

平成24年度 学校評価自己評価

学校名〔 京丹後市立網野中学校 〕

| 学校経営方針(中期経営目標) | | 前年度の成果と課題 | 本年度学校経営の重点(短期経営目標) |
|--|--|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・基礎・基本の徹底、言語活動の充実により学力の充実・向上を目指す教育活動を推進する。 ・他人を思いやる心、規範意識の醸成など豊かな心を育むため、学校内外における体験活動、生徒指導、教育相談、特別活動を充実させる。 ・向上心、忍耐力、協調性等の育成を図るため、部活動、行事等を充実させる。 ・小中連携をさらに充実し、小中一貫教育を見据えた教育活動を展開するとともに、その成果を保護者や地域に発信する。 | | <ul style="list-style-type: none"> ・各種テスト結果より国語、数学、英語についてはほぼ平均値、もしくは平均値を上回ったが、理科、社会はやや下回っている。 ・登下校の様子や学校生活での落ち着いた様子、生徒アンケート結果等から、全体の規範意識は向上してきたと言える。さらに、自律的な力の育成が必要である。 ・部活動、行事等を通じてルールやマナーを大切にし、自主性、協調性が育ってきた。 ・中1ギャップを解消するために、小中間において指導を具体的に統一して取り組むことが必要である。(学力充実、生徒指導等) | <ul style="list-style-type: none"> ・学力の充実・向上 【表現する力の育成(基礎・基本の徹底、言語活動の充実)、学習習慣の確立(家庭学習への手立て)】 ・自律の力、支え合う力の育成(他律→自律→自立) 【生徒との触れ合い、話しこみの重視、学校行事、学級活動、生徒会活動、部活動などの充実】 ・豊かな心の育成 【ボランティア活動の充実、体験活動の充実】 ・小中一貫教育に向けた小中連携の推進 【目指す子ども像の設定、小中間での一貫した指導、子ども、教職員の交流と協働】 |
| 評価項目 | 重点目標 | 具体的方策 | 成果と課題(自己評価) |
| 教育課程 学習指導 | <ul style="list-style-type: none"> ・授業規律の確立を基盤とした授業改善 ・基礎・基本の徹底と言語活動の充実を図る指導の工夫 ・学習意欲の喚起と家庭学習の習慣化 | <ul style="list-style-type: none"> ・少人数授業における効果的な講座編制(国・数・英) ・学力分析と課題の改善 ・生徒指導部、特別活動部を中心とした授業規律の徹底 ・テーマに基づいた校内授業研究会(年5回)の実施 ・小中連携による授業公開(小中でテーマを統一) ・ドリル、振りスタ、補充学習の実施 ・家庭学習の実態調査と具体的な手立て | <ul style="list-style-type: none"> ○各種テスト結果において、今年度も3教科(国、数、英)は全国、府、市平均値とほぼ同等もしくは上回る結果であった。 ○全体として落ち着いた授業態度であり、年間を通して外部の参観者からも高評価を得た。 △言語活動を通して活用能力を育成する授業の工夫を図る。 △家庭学習1時間以内が全体の70%を占めており、依然として定着していない。 |
| 生徒指導 | <ul style="list-style-type: none"> ・生徒との信頼関係の構築 ・望ましい人間関係の育成 ・組織的指導力の向上 | <ul style="list-style-type: none"> ・部活動、業間指導等、生徒との触れ合い、話しこみの重視 ・生徒指導部会の定例化(毎週金曜日)による実態把握 ・毎週月曜日「気づき」の発行による、情報の共有化と指導の統一 ・毅然とした指導、複数指導等全教職員の一致した指導 | <ul style="list-style-type: none"> ○問題事象が減少傾向にあり、全体は規律のある生活が定着してきた。(2月末現在問題事象発生件数40件：昨年62件) ○生徒の主体的な活動が充実し、規範意識や自己有用感等のアンケート結果も好数値を示している。 ○部活動等を通してルールやマナーが全体に定着してきた。 △不登校が増加傾向にあり、別室指導等校内でも居場所づくりをさらに工夫する。(不登校14名、出現率3.6%、昨年度3.07%) |

| | | | |
|---------------|--|--|--|
| 健康（体育）・安全 | <ul style="list-style-type: none"> ・安全に対する意識の高揚 ・健康の保持増進 ・健康教育の推進 | <ul style="list-style-type: none"> ・毎日の登下校の安全指導、定期的な PTA 登校指導 ・交通安全教室の実施（1年） ・避難訓練（年2回）（津波を想定した避難訓練を含む） ・施設・設備の安全点検（年2回） ・毎日の健康観察、保健室の来室状況の把握、保健だよりの発行 ・薬物乱用防止教室、性教育等の系統的・計画的な指導 | <ul style="list-style-type: none"> ○津波を想定した合同避難訓練を今年も実施し、小学生をうまくリードし良い手本を示すことができた。 ○養護教諭を中心として健康観察、健康教育を計画的、組織的に進めることができ、健康の保持増進に対する意識を高めた。 △一列走行、一旦停止など、さらに指導を徹底する必要がある。 △施設・設備の安全点検を計画的に実施する。 |
| 特別支援教育 | <ul style="list-style-type: none"> ・校内体制の整備 ・障害のある生徒に対する個に応じた指導の推進 | <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育コーディネーターを中心とした組織的な指導の充実（個別の指導計画、個別の教育支援計画の作成） ・特別支援学級における指導体制の強化 ・通級指導教室における個に応じた指導の充実 ・特別支援教室の開設と加配の効果的な活用 | <ul style="list-style-type: none"> ○保護者や関係機関と連携しながら組織的に指導・支援を行い、将来を見据えた進路の実現につなげることができた。 ○特別支援学級、通級指導教室に加えて特別支援教室を開設したことにより、個別の教育支援が充実した。 △作成した個別の教育支援計画、個別の指導計画の活用、教科担当者会議の定例化により課題の共有化を図る。 |
| 開かれた学校づくり | <ul style="list-style-type: none"> ・信頼される学校づくり ・双方向の情報交流を生かした学校改善 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域や保護者に対する誠実・迅速・丁寧な対応 ・ボランティアや演奏活動等の地域への貢献 ・PTA活動の活性化（来校者数増加への手立て） ・地域の教育力の活用（伝統文化体験、職場体験、福祉体験、学校支援ボランティア） ・学校だより、HP等による情報発信 | <ul style="list-style-type: none"> ○PTA活動への参加者の増加や保護者アンケートの好結果（85%の保護者が本校の教育を信頼している）など、保護者の理解と協力を得ながら教育活動を進めることができた。 ○地域の教育力の活用、地域の関係団体への授業公開など学校改善に生かすことができた。 △ボランティア活動が学校内外に定着してきたが、より多くの生徒が参加できるしくみをさらに工夫していく必要がある。 |
| 小中一貫教育への取組 | <ul style="list-style-type: none"> ・組織体制の整備 ・小中における指導の統一 ・子ども、教職員の交流と協働 | <ul style="list-style-type: none"> ・事務局会議の設立と機能化（企画・立案・進行管理） ・目指す子ども像の設定 ・各領域（学力充実、生徒指導、教育相談、特別支援教育、特別活動、養護教諭）ごとにおける小中間での指導の統一 ・合唱祭、駅伝練習、避難訓練等の合同実施 ・公開授業、全体研修会等の合同実施 | <ul style="list-style-type: none"> ○事務局を中心とした組織を再構築し、取組をスムーズに推進することができた。 ○目指す子ども像の設定、「これだけは」等の小中間での指導の統一等、小中がさらに連携を密にして指導を展開できるようになった。 ○子どもや教職員の交流により、より質の高い目標を掲げ、相互に学び合う機会となった。 △保・幼稚園を加えた組織体制、地域との連携づくりを進める。 |
| 次年度に向けた改善の方向性 | <p>小中一貫教育研究指定校（2年目）を契機に、中学校区全体で新たに策定した目指す子ども像の実現を目指し、教育活動の充実を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業規律の確立を基盤とした授業改善（基礎・基本の徹底、言語活動を通じて活用する力の育成） ・生徒の自律的な力、支え合う力の育成（生徒会活動と学級活動との連動、部活動のさらなる活性化） ・小中一貫教育を見据えた小中連携のさらなる充実（保・幼・小・中の組織体制、地域との連携） | | |

| 学校経営方針(中期経営目標) | | 前年度の成果と課題 | 本年度学校経営の重点(短期経営目標) |
|--|---|--|--|
| <p>1 学校教育目標 「知・徳・体の調和」 ～自立心旺盛な生徒の育成～ 「考える力・認める力・行動する力」を 培うことができる生徒</p> <p>2 目指す生徒像</p> <p>(1) 自分も他人も大切にしたい思いやりのある生徒</p> <p>(2) 何事にも目標を持って頑張り努力する生徒</p> <p>(3) 郷土を愛し、地域に貢献する心を持った生徒</p> | | <p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 目標準拠学力検査、全国学力・学習状況調査、京都府中学校学力診断テスト等の結果によれば、学力は定着しており、特に3年生は授業も確立し大きく向上した。 ○ 心の教育の充実、生徒一人一人に目標を持たせる、目標と評価の実践等により問題事象は少なかった。 ○ 地域貢献活動、小中合同クリーン作戦等、行事への参加体制が整い、地域や小学校との合同行事も生まれ、多くの参加が実現し開かれた学校づくりの一因となった。 ○ 合唱祭、体育祭、学習発表会、心の教育講演会、保護者・地域に公開した作品展等の学校行事において、新聞折込やPTA行事との関連付け等により、参加者も増え概ね肯定的な評価を得た。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> △ 教師主導の指導が主となり、生徒自らが考え、行動する自立心旺盛な生徒をはぐくむ必要がある。 △ 不登校生徒は昨年複数いた。今年度実数値はゼロであるが、不登校傾向生徒は在籍しており、予断は許さない。 △ 少人数授業の充実と個に応じた一層の指導により学力の伸長が必要である。 | <p>1 3推進部会で学校運営を組織的に推進する。</p> <p>2 学力の充実向上</p> <p>(1) 基礎的基本的な知識・技能の習得</p> <p>ア 意欲的な学習習慣づくりの確立</p> <p>イ 少人数授業等授業形態の工夫による授業改善</p> <p>ウ 学力課題の分析と継続的な指導</p> <p>(2) 家庭学習習慣の確立</p> <p>生徒個人の目標を設定し、家庭と連携をとり評価・面談の積み上げで学習習慣の確立</p> <p>3 心の教育の育成</p> <p>(1) 教育相談の充実推進</p> <p>ア 生徒との内面理解を深めるための定期相談</p> <p>イ SC、関係機関、小中の連携の推進</p> <p>(2) 道徳教育の充実</p> <p>ア 道徳の時間における授業形態の工夫</p> <p>イ 人間として大切なマナーや規律の日常生活の場での意識的な指導</p> <p>(3) 進路指導の充実</p> <p>キャリア教育を取り入れた、進路学習の充実</p> <p>4 開かれ、信頼される学校づくり</p> <p>(1) 学校・家庭・地域社会の一体化</p> |
| 評価項目 | 重点目標 | 具体的方策 | 成果と課題(自己評価) |
| <p>教育課程</p> <p>学習指導</p> | <p>◇学力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力検査の分析、授業規律の確立に基づいた授業改善、基礎学力の定着 ・新学習指導要領初年度として年間計画・評価計画等の充実 ・家庭学習の定着 ・京都式少人数教育の積極的活用 ・小中連携の充実 | <ul style="list-style-type: none"> ・ステップバイステップ、課題提出、課題補習学習会、ミニミニ30等による家庭学習定着に向け、保護者への啓発活動の推進 ・少人数授業の推進、「中1振り返り集中学習」の活用 ・SHR後クラスマッチドリル学習及び放課後学習の推進 ・全国、府学力診断テスト等の分析による授業改善の推進 ・校区小中学校相互の取組推進(授業参観、合同研修会等) | <ul style="list-style-type: none"> ○学校体制で課題提出を行い提出率が大幅に改善した。 ○ステップバイステップ、ミニミニ30が家庭学習の定着に大きく寄与し、保護者との連携が図れた。 ○英語、数学クラスマッチ(ドリル)等様々な取組により1,2年CRT、3年生の広域テストの成績が上がった。 ○学期に1回、小中学校相互の授業参観や授業アンケートで小中学校授業のあり方を研修し授業改善に役立てた。 △魅力ある授業づくりやことばの力を育成する授業改善に向けた研修、組織運営を図る必要がある。 |

| | | | |
|---------------|--|--|---|
| 生徒指導 | <ul style="list-style-type: none"> ◇生徒のより良い人間関係の育成 <ul style="list-style-type: none"> ・特別活動（生徒会）と連携 ◇危機管理意識に基づく、問題行動の未然防止 ◇不登校生徒の未然防止 <ul style="list-style-type: none"> ・全教職員で心の状況を把握 | <ul style="list-style-type: none"> ・生徒自身に目標を持たせ、適切な評価を行う中で保護者との連携の充実 ・生徒指導部会、教育相談部会の定例化及び行動強化 ・児童相談所、子ども未来課、警察等関係諸機関との連携 ・スクールカウンセラーを活用した教育相談スキルの向上 ・生徒自身に任せ取り組ませる生徒会活動の推進 | <ul style="list-style-type: none"> ○月、週目標の設定と教師、保護者の評価により見通しを持ち意欲的な生活態度で過ごす生徒が増えた。 ○全教員で一致した指導のもと SC も含め教育相談部会を週1回行い不登校生徒が3学期以降全員学級復帰した。 ○隔週水曜日を生徒会活動優先の日にし、プラスワン行動等専門委員会も連動させ、自治的能力を高めた。 △たくましく生き抜く、生徒個人の実態に視点をあてた生き方に関する継続的指導に課題が残った。 |
| 健康（体育）・安全 | <ul style="list-style-type: none"> ◇日常生活や健康教育・安全教育・性教育等を通して、主体的に健康で安全な生活を創り出す態度の育成 ◇食育教育の推進による正しい食生活への理解と深化 | <ul style="list-style-type: none"> ・PTA と連携した取組の継続と網野自動車教習所を招聘しての安全教室の推進 ・薬物乱用、非行防止教室等、未然防止活動の実施 ・性教育等、外部機関の専門職を招聘して教育活動の推進 ・京丹後食育の日、給食週間を活用した、食育に関する教育活動の推進 | <ul style="list-style-type: none"> ○薬物乱用防止教室や非行防止教室で、警察署等の関係機関と連携し講演を持ち、生徒に危険が身近にありまた危険防止に対する知識・心構え・行動等規範意識を高めた。 ○毎週水曜日、PTA と協力した保護者全員による登校指導により、ヘルメットの着用・交通マナーの改善ができた。 △体育祭競技練習中の安全面での配慮が弱い。 |
| (A) 開かれた学校づくり | <ul style="list-style-type: none"> ◇生徒・学校の実態を保護者・地域住民と共有化し、連携協力による健やかな生徒の育成 ◇学校評価等の活用による教育活動の改善 | <ul style="list-style-type: none"> ・毎月の学校便りの発行、HP 公開、全区民への配付 ・学校公開の推進（評議員、保護司、民生委員等） ・目標と評価、学習状況報告書に保護者評価の記載 ・ふれ合いコンサート、40周年式典、区民運動会、文化祭への積極的な参加及び区長との懇談 ・月毎の複数日にわたる学校公開（授業部活動等）の実施 | <ul style="list-style-type: none"> ○学校公開、広報、便り、行事参加等によりアンケート結果も実数が高まり、地域・保護者との連携が進んだ。 ○行事の広報や PTA の学校行事への参画の工夫により、例年より多数の保護者の参加があった。 △学期ごとの総括と学校評価との関連を図ることで、効率的な学校運営の改善を目指す。 |
| (B) 進路指導 | <ul style="list-style-type: none"> ◇3年間を見通した計画的・系統的な進路指導・キャリア教育の推進 | <ul style="list-style-type: none"> ・生き方、あり方を生徒が主体的に考えるキャリア教育を重視した教育課程の編成 ・全学年での体験学習の実施 ・高校制度、奨学金制度等進学に関する情報提供の実施 | <ul style="list-style-type: none"> ○将来、高校、1年後、月・週ごとに先を見通した目標を設定し生徒指導部と連携した指導で前向きな生徒が増加 ○全学年の三者面談・進路説明会を持ち将来の進路に関心・意欲を高めた。 △3年間を見通した計画的・系統的な進路指導・キャリア教育を推進し、進行管理する。 |
| (C) 特色ある学校づくり | <ul style="list-style-type: none"> ◇外部の人材活用による学校教育の活性化 ◇小中連携による教育活動の推進 | <ul style="list-style-type: none"> ・命をテーマにした心の教育の積極的な推進 ・学校支援ボランティア等外部の人材による学校支援の推進 ・相互授業参観、合同生徒指導部会等計画的実施の推進 | <ul style="list-style-type: none"> ○自衛隊、消防士、映画原作者、図書館司書、栄養士、助産師、高校教諭、部活動の外部コーチ等を招き、教育の質の向上を目指し、生徒の意欲・関心を高めた。 ○バレーボール部は外部コーチの支援もあり府ベスト8入りを果たす。 △小中連携、小中一貫教育の推進に向け、授業参観、合同研修会を通して、より連携をスムーズに行う。 |
| 次年度に向けた改善の方向性 | <ul style="list-style-type: none"> ・自ら見つめ考えさせ伸ばす生徒の自立心を育成する教育の一層の推進及びキャリア教育の視点（生き方・在り方）を教育活動全体に取り入れ、自己を見つめ考えさせる指導の展開を図る。 ・数学・英語での習熟度別学習の実践から指導方法を研究し、各教科に波及させ、学力伸長を図る。 ・学校経営方針の具現化に向け、組織的な運営の在り方を改善する。 ・特別な支援を必要とする生徒の個々の発達課題を全教職員が把握し、個々の指導計画に基づく指導内容・方法の工夫改善を進める。 ・地域のニーズに沿った交流教育等を実施し、生徒の中・中連携へのスムーズな移行を進める。 | | |

(別紙様式1)

平成24年度 学校評価自己評価報告

学校名〔 京丹後市立間人中学校 〕

| 学校経営方針(中期経営目標) | | 前年度の成果と課題 | 本年度学校経営の重点(短期経営目標) |
|---|--|---|--|
| 自律した生活姿勢と学力の育成 ・学習規律を確立させ、学習意欲を高める。 ・人権意識を高揚させ、豊かな人間性を築く。 | | ○ 学習指導のめあて、既習事項の確認、検証が定着した。 △ 人権感覚を養い、生徒同士の良好な関係を構築する。 | 1 基礎学力の定着 2 生徒指導の充実 3 部活動の充実 4 小中連携の推進 5 学校再配置へ向けた取組の推進 |
| 評価項目 | 重点目標 | 具体的方策 | 成果と課題(自己評価) |
| 教育課程 学習指導 | ・基礎的、基本的な内容を確実に身につけさせる。 | ・ねらいを提示し、既習事項を繰り返し、学習内容を理解させる。(小テストで検証する) ・授業に言語活動を取り入れる。(発問を小集団で検討する) ・6月、11月に「全校文法学習」を実施し、ことばの決まりを定着させる。 | ○ 夏季学習会、授業の導入時に小テストを行い、繰り返しの学習活動により基本問題の攻略方法を身につける生徒が増えた。(社会、理科の暗記すべき基本用語等) △ 中心発問を反芻させ、学習意欲につながる興味付けが弱い。ため、活発な意見交流に発展することは少ない。 |
| 生徒指導 | ・生活実態の把握や内面理解に努める。 ・課題を解決する実践力を育てる。 | ・家庭訪問、個人面談を実施する。 ・道徳の時間、学校行事、奉仕体験活動等を通じて考え、実践、反省させる。 ・全校教育相談タイムの実施(学習、友人関係、部活動について相談活動、個人目標確認等) ・生徒アンケートの分析をもとに指導、支援策の検討を行い実践する。 | ○ 個人面談・家庭訪問により、生徒の成果や課題を示し、目標を設定する機会をつくり指導と評価を行なった。特に3年生は進路を意識し、言動や将来を展望する機運が生まれた。 △ 学級活動、部活動をとおして人権感覚、道徳的な実践につながる取組を実態に即して行なうことが必要である。 |
| 健康(体育)・安全 | ・基本的な生活習慣の確立を図る。 ・安全な生活を営む判断力と実践力を養う。 | ・朝練習を実施し、早寝早起きを習慣化させる。 ・給食指導の徹底(給食着の完全着用、偏食の根絶) ・避難訓練(津波、火災、地震)、火気取扱指導により安全教育を行なう。 ・ヘルメット着用、防犯赤色点滅キーホルダー装着により安全な登下校をさせる。 | ○ 保護者の協力があり、体育・文化クラブとも遅刻する生徒は少なく朝練習の参加が見られた。交通マナーも向上を見せ、校則違反の生徒を指導する機会は激減した。 ○ 教員の指示により避難訓練、火気の手扱いは適切に生徒が対応する習慣が定着した。 |

| | | | |
|---------------|--|---|--|
| 開かれた学校づくり | <ul style="list-style-type: none"> ・学校支援ボランティアの協力、連携により生徒の活動を活性化させる。 ・学校と地域の連携を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> ・部活動を活性化させ、個人の目標をもたせる。 (技量と仲間意識、マナーを向上させる) ・授業参観日、学校公開当日に保護司会・民生委員との懇談会を開催し、学校から情報発信し、地域からの情報を得る。 ・部活動を公開し、生徒の活動実態を披露する。 ・外部講師を招き、体験活動や実生活に役立つ学びの時間を設定する。 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 学校支援ボランティアとの連携を図り、部活動の活性化につながる指導を心がける顧問の姿勢が、生徒の取組を意欲的にさせた。 △ 練習の成果が結果として現れ、生徒の自信となるよう継続指導が必要である。(課題を克服する方法を伝授する具体的な指導が要る。) |
| 危機管理 | <ul style="list-style-type: none"> ・安心、安全な学習環境づくりに努め、生徒・保護者・地域との信頼を得る。 | <ul style="list-style-type: none"> ・自分の大切さと共に他の人の大切さを認めることができる生徒を育成する。(学級指導、部活動を通じて) ・生徒の諸活動をもとに学級内の生徒同士の関係を把握する。 ・日々の校舎内外の施設点検を行なう。 ・避難訓練、初期消火の講習を行う。 ・学級内の任務分担(火気取扱等)を徹底させる。 ・校内研修を重ね、教職員全体の危機意識を高める。 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 担当者が、校内外の日々の安全点検を行い、異常があれば適宜指導、対応することができた。耐震補強、改修後の施設については全職員がつぶさに点検確認作業を継続している。 △ 生徒を掌握するための観察、洞察力を高める教職員同士の連携不足から人間関係の摩擦を生じさせる事象に発展した。生徒のつぶやき、家庭内の生活実態に目を向け時期を逃さず指導をすることが課題である。 |
| 小中一貫教育への取組 | <ul style="list-style-type: none"> ・小学校と中学校の連携を図り、中学校生活の情報を発信し、中一ギャップの克服を目指す。 | <ul style="list-style-type: none"> ・間人中学校区小・中一貫教育プラン(仮称)に基づく活動を進め、学校再配置とも併せて教育課程の充実を図る。 *中学校区で目指す子ども像を共有する。 *就学前・9年間の一貫した指導を行う。 *子どもと教職員の交流と協働を図る。 ・小6と中学生による合同部活体験活動(1・2学期) ・中学校から小学校への出前授業 ・小中公開授業(両校の教員による参観) ・小中連絡、合同研修会を通じた情報交換による密接な連携 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 小学生の部活参加により、中学生の責任と自覚を養うことができた。リーダー育成につながるよい機会となった。 △ 出前授業、公開授業の実践結果をもとにした教職員全体の研修が必要である。(小学生の実態や指導方法を振り返る効果的な事後研修の設定) |
| 次年度に向けた改善の方向性 | <ol style="list-style-type: none"> 1 小中一貫教育・小中連携(出前授業、合同部活動の継続、参観授業と小・中研修会)の取組を効果的に行う。 2 生徒指導を充実させるための生徒の人間関係図と指導の実践記録を資料化し、若手教員の力量向上を図る。 3 学校再配置を見据えた合同行事の計画、実践により生徒に生きる力を身につける。 | | |

平成24年度 学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立宇川中学校〕

| 学校経営方針(中期経営目標) | 前年度の成果と課題 | 本年度学校経営の重点(短期経営目標) | |
|--|--|--|---|
| 1 質の高い学力の育成 2 進路指導の充実 3 健康な体と豊かな心の教育の充実 4 信頼される学校づくり 5 教職員の資質能力の向上 | ○小中連携の一環として授業研究を深め、個々の教員が授業力量を向上させ、学力充実向上が図れた。 ○3年間を見通した系統的、継続的な進路学習を行い、個々の生徒が自らの進路を切り拓いた。 ○小中連携における小学生との交流を通し、自らの在り方や生き方を振り返らせ、意欲を引き出す指導の展開ができた。 ○心身の成長を重視させる健康教育や部活動指導を通して健康への意識を高め、生徒が自らを伸ばさせた。 ○PTA、地域の事業所、宇宙おやじの会等との連携の中で、積極的な情報発信を通し、開かれた学校づくりにつながった。 ○小中連携で小中生が互いを尊重し合う良い関係が導かれた。 ○「全教育課程を通してコミュニケーション力を育てる」という教育活動を推進させることができた。 △生徒の落ち着いた実態に甘んずることなく、更に教育を追及する教員の姿勢を育成する。 | 1 一人一人に質の高い学力の育成を図る。 2 夢や希望で未来を展望させ、進路指導の充実を図る。 3 自らの生き方に挑戦する意欲を持たせ、生徒指導の一層の充実を図る。 4 「心の教育」を充実させ、心豊かな人間性やつながる力を身につけさせる。 5 教育活動全体を通して、健康や体力の向上に努めさせる。 6 地域から信頼され、開かれた学校づくりに努める。 7 小・中・高連携の更なる推進に努める。特に、小・中連携教育の推進に努める。 8 効果的な運営を目指した各分掌間の連携の強化を図る。 9 教職員の指導力向上を図る研修の充実を図る。 | |
| 評価項目 | 重点目標 | 具体的方策 | 成果と課題(自己評価) |
| 教育課程 学習指導 | <ul style="list-style-type: none"> ・質の高い学力の継続と向上 (学力の実態把握と向上、思考力・判断力・表現力の育成、指導方法の研究と工夫改善、授業規律の定着) ・家庭学習習慣の確立と定着 ・学校生活の活性化と日常生活の創造 | <ul style="list-style-type: none"> ・学校運営を効率よく推進するために各分掌との連携を強化し、教育活動の充実を図る。 ・授業展開や規律に関して共通性を持たせる。 ・SHR、生徒会活動、部活動、学校行事等の全教育活動を通して生徒が自己表現する場を設定する。 ・コミュニケーション力を育成する研修を深める。 ・家庭学習の定着に向けた日々の課題の提示と添削、やりきらせる指導の継続を行う。 ・全教科で週末課題の取組を行う。 ・生徒会活動の充実を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> ○新教育課程実施初年度、指導内容の研究、指導方法の工夫、評価の研究等を各教科で進化発展させた。 ○コミュニケーション力の向上を目指し、視点を明確にした授業研究を行った。 ○集中した授業展開と適切な生徒指導との連携により、学力の充実向上が図られ、対外的な学力テストにもその成果が表れた。 △学力に課題のある生徒だけでなく、中位、高位の生徒の学力充実向上に意識を持つ。 |

| | | | |
|--------------------------------------|---|--|---|
| 生徒指導 | <ul style="list-style-type: none"> ・学級経営の充実 ・好ましい人間関係の育成 ・コミュニケーション力の充実向上 ・規範意識の向上 ・不登校の未然防止と組織的な指導展開 | <ul style="list-style-type: none"> ・「気づき」による状況交流を毎週行い、生徒理解を図る。 ・生徒指導部会を週1回定例化し、組織的・継続的な指導を早期に行う。 ・学級経営、教科指導、部活指導等で規範を意識させる。 ・地域、家庭及び小学校と連携した生徒指導の充実を図る。 ・定期的な教育相談部会を週1回は行う。 ・必要に応じてプロジェクトチームを作り、指導を展開する。 | <ul style="list-style-type: none"> ○気づきを定期的に記入することで、情報交流と全教職員が一致した指導が的確にできた。 ○学級活動、部活動等でコミュニケーション力を意識した自己表現の取組は人間関係の改善につながった。 ○態度・服装・言葉遣い等の指導を継続し、改善させた。 △生徒の内面に響く生徒指導力の向上を目指す。 |
| 健康（体育）・安全 | <ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣の確立 ・食育指導の充実 ・安全教育の充実 ・部活動の推進 | <ul style="list-style-type: none"> ・計画的な性教育、食育指導の充実を図る。 ・毎月1回、校舎内外の安全点検を実施するとともに、学校危機について研究を深める。 ・個々の部員が振り返りタイムで自らの思いを語り、存在感のある部活動をつくりあげる。 | <ul style="list-style-type: none"> ○保健・給食日より、掲示等の内容を充実させた。 ○全校給食、小中合同給食を実施し、充実した給食の取組が展開できた。 ○危機管理マニュアルの見直しと改善を行った。 △部活動での「一人一言振り返りタイム」がほぼ定着した。 |
| 進路指導 | <ul style="list-style-type: none"> ・三年間を見通した系統的、計画的な進路指導の推進 ・目的意識を高める指導の充実 ・学力の充実向上 ・自らの言葉での自己表現 | <ul style="list-style-type: none"> ・職場体験、講話学習の実施、進路学習の充実を図る。 ・計画的、系統的な二者面談、三者面談を実施する。 ・進路情報の収集と進路資料の活用を進める。 ・放課後及び早朝学習会と家庭学習課題の取組を行う。 ・様々な発表の場において自分の言葉で発表させる。 | <ul style="list-style-type: none"> ○計画的な面談は、進路に対する生徒の意識を高めた。 ○週末課題が学習意欲と家庭学習習慣の定着に発展した。 ○自分の思いを適切に言葉にできる生徒が増加した。 △自発的な早朝、放課後学習に発展したが、全員の参加にはならなかった。 |
| 特別支援教育 | <ul style="list-style-type: none"> ・特別な支援を必要とする生徒の実態把握と指導展開 ・特別支援学級生徒の進路実現に向けた学力、生活力の充実と支援 | <ul style="list-style-type: none"> ・通常の学級に在籍する特別な支援を必要とする生徒を把握し、適切な指導を行う。 ・全校生徒の一員として責任ある立場での言動を通して自分の役割を意識させ、社会性を向上させる。 ・第2学年から卒業後の進路を考えさせ、学力向上につなげる。 | <ul style="list-style-type: none"> ○全教員で全生徒を見直しし、個々の生徒の成長面と課題面を把握し、指導の手立てを講じた。 ○学力向上を目指し、家庭と学校での学力支援を家庭と連携強化を図った。また、生活力も向上した。 △進路実現に向けて、さらに学力充実向上を図りたい。 |
| その他 特色ある ある学校 づくり (小中連携) | <ul style="list-style-type: none"> ・小中連携教育の推進 ・教育活動の積極的な公開 | <ul style="list-style-type: none"> ・学習指導、生徒指導に関する小中連携を推進する。 (相互の公開授業参観、小中連携合同研修会等) ・小中連携に係る活動を広報誌で内外に発信する。 ・外部講師の積極的な活用を通し、研鑽を積む。 ・PTA活動と連携した小中連携を推進する。 | <ul style="list-style-type: none"> ○小中連携では、「学力・交流・学び」部会が機能し、全教員が協力し、充実した研究発表会を行うことができた。 ○交流、取組を通して児童と生徒の間に「あこがれ、愛おしさ」が芽生え、相互に信頼感が高まった。 ○PTAと連携した取組は、地域に受け入れられた。 |
| 次年度に 向けた 改善の 方向性 | <ol style="list-style-type: none"> 1 教科指導力、学級経営力、生徒指導力を基盤に、質の高い学力を身に付けた生徒の育成を目指す。 2 三者連携を基盤に、教職員一人一人に自らの役割を意識した組織的な教育活動を展開する。 3 家庭との連携を重視しつつ、教職員による生徒の内面理解を深め、意欲的で心豊かな生徒を育成する。 4 地域等と連携した長い歴史を閉じる中で、新中学校に向かう気運を高め、夢を持ち、つながり、展望し、チャレンジする生徒の育成を目指す。 | | |

平成24年度 学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立弥栄中学校〕

| 学校経営方針(中期経営目標) | | 前年度の成果と課題 | 本年度学校経営の重点(短期経営目標) |
|---|--|--|---|
| 1 確かな学力の充実向上 2 心の教育の充実、不登校の未然防止と解消 3 安心・安全で信頼される学校づくり | | 1 学力 ○全校学習・補充学習等を実施し、学力充実が図られた。 ○小中連携を密にし、全学級の授業公開をした。 △学習習慣の確立、家庭学習が不十分である。 2 心の教育 ○文化芸術鑑賞の継続実施ができ、情操が高まった。 ○道徳教育の先駆的研究の成果を生かした取組の継続ができた。 ○朝読書の指導が定着した。 3 安心安全な学校づくり ○危機管理マニュアルを改善し、避難訓練を3回実施し災害への対応力が身についた。 ○HPの更新、各種便りの発行により情報提供に努めた。 △授業参観、懇談会への保護者参加が少ない。 | 1 学力 ・基礎基本の徹底と学力の定着につながる日常的な取組の推進 ・総合的な学習の時間の工夫と評価の改善 ・教育活動全体を通じた言語活動の工夫 2 心の教育 ・やわらか、さわやか、かろやかなイメージの意識 ・体験活動の充実、異年齢集団の活動の充実 ・読書活動の推進、芸術鑑賞の機会設定 3 安心安全な学校づくり ・積極的な教育活動や学校運営の公開、HPの更新 ・地域社会との連携、教育力の活用 ・危機管理体制の確立と危機管理意識の高揚 |
| 評価項目 | 重点目標 | 具体的方策 | 成果と課題(自己評価) |
| 教育課程 学習指導 | <ul style="list-style-type: none"> ・基礎基本の徹底と、学力の定着につながる日常的な取組の推進 ・学習規律、学習習慣の確立 ・全ての教育活動を通して学力の基本となる言語力の向上 ・言語力を育成する授業の工夫改善 | <ul style="list-style-type: none"> ・教育計画の見直しと改善に向けた再点検 ・学力診断テスト等の分析、小中連携による課題の共有 ・生徒に対する各種アンケートの実施と活用 ・定期テスト実施前の全校学習の実施 ・学力向上のための全校補充学習の実施(放課後) ・授業者による統一指導と学級指導の徹底 ・学習の手引きの作成と活用 ・教科の授業における言語活動の工夫と表現力の育成 ・文化芸術鑑賞等による感動体験の場の設定 ・教育活動全体を通して言語力を育む取組の推進 | <ul style="list-style-type: none"> ○言語環境の整備、図書館との連携によるブックトークの全学級での実施等、言語力を高める取組が進展した。 ○学習の手引きを作成し、全ての教科で指導した。 ○各種作文や絵画部門において多くの生徒が受賞した。 ○ワークショップも含めた演劇鑑賞やピアノの生演奏鑑賞など、文化芸術鑑賞が充実した。 △各教科の授業や行事の取組等において、自分の思いや考えを自分の言葉で発言する力を育成する。 △学習規律、学習習慣の定着が不十分である。 |

| | | | |
|---------------|--|--|--|
| 生徒指導 | <ul style="list-style-type: none"> 健全な生活態度の育成、規範意識の向上 心の教育の充実 部活動、生徒会活動における主体的な態度の育成 相談体制の確立 | <ul style="list-style-type: none"> 毎週定例の教育相談部会、生徒指導部会開催 挨拶をはじめとする基本的なマナー、ルールの指導 全教育活動における道徳教育の推進と、異年齢活動による、自他を思いやる心の育成 全教職員による学級経営の交流や問題事象の教訓化 問題事象に対する丁寧な事実関係の把握と生徒・保護者への粘り強い指導 校内相談体制の確立と学校外の機関の活用によるいじめや不登校の未然防止と解消に向けた取組 | <ul style="list-style-type: none"> ○昨年度から実施している交通安全意識を高めるための「違反連絡用紙」の取組によりマナーが向上した。 ○問題事象の詳細な事実関係把握と、本人や保護者に対する納得できる指導、教員の共通理解が進んだ。 ○毎週定例会議を開催し、情報の共有化、意識化を図った。 ○S C、関係機関との連携が進展し、指導効果が上がった。 △教科や領域・分掌を統合的・横断的に取り組む生徒指導に取り組んだが、共通理解の徹底が不十分であった。 |
| 健康(体育) ・安全 | <ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣の確立 保健教育と保健管理の徹底 防災意識の高揚と事故防止 部活動の充実 | <ul style="list-style-type: none"> 給食を中心的な教材とした食育の充実 薬物乱用、喫煙防止教室等、実態に即した保健教育 避難訓練、自転車点検の実施、安全マニュアルの見直し 朝練習の継続と放課後の部活動の時間確保 | <ul style="list-style-type: none"> ○薬物乱用教室を実施し、健康保持への意識が向上した。 ○バレー部やソフト部などの好結果に合わせて、日常的な部活動の活性化が見られるようになってきた。 ○全学年で非行防止教室を計画的に実施した。 ○自転車の鑑札、名札の着用が定着した。 △補充学習と部活動の時間確保の計画的な調整が必要である。 |
| 進路指導 | <ul style="list-style-type: none"> 学力向上と希望進路実現 キャリア教育の推進 | <ul style="list-style-type: none"> 各種データによる生徒の学力実態や課題を踏まえた指導 生徒や保護者とのこまめな丁寧な面談の実施 進路にかかわる情報提供等、計画的な進路学習の実施 学年に応じた計画的な進路学習の実施 | <ul style="list-style-type: none"> ○全ての保護者を対象とした進路説明会、高校説明会の実施と複数回にわたる個人面談等の実施ができた。 ○3学期に「キャリア教育」を核にした指導を統合的・横断的に展開することができ、次年度へ道筋ができた。 |
| 危機管理 | <ul style="list-style-type: none"> 交通安全、生活安全に対する意識の向上と事故防止 危機意識、対応能力の向上 教職員の服務規律確保 | <ul style="list-style-type: none"> 警察との連携のもとに交通教室等の実施 学期一回の避難訓練の実施と毎月の安全点検 新聞記事等を活用した時宜に応じた情報提供と指導、研修の実施と日々の危機意識の高揚 | <ul style="list-style-type: none"> ○生徒の安全意識が向上した。 ○計画通り避難訓練を実施し、講話を聴く態度も向上した。 ○休み時間中の避難訓練を実施し、自分たちのとった緊急対応を考えさせ、危機対応意識の向上を図った。 △事故防止への危機意識が不十分である。 |
| 開かれた学校づくり | <ul style="list-style-type: none"> 学校評価の充実 保護者、地域との連携強化 | <ul style="list-style-type: none"> 校外における体験活動の機会の拡充 こまめなアンケート実施と意見聴取 学校評議員、保護司、民生児童委員等との日常的な連携 社会人講師として地域人材を多方面で活用 適時性のあるHPの更新や各種通信の発行 | <ul style="list-style-type: none"> ○保護者に行事や学期ごとの評価アンケートを実施し、その結果や改善に向けた取組を公開した。 ○各関係団体との懇談会を実施し、意思疎通を深めた。またHPの内容や更新に保護者や地域から評価を受けた。 ○総合的な学習の時間や進路学習、食育指導などにおいて、社会人講師を多く活用した。 |
| 次年度に向けた改善の方向性 | <ul style="list-style-type: none"> ・小中で共通した学習規律の確立と、活用する力や学習意欲の向上に向けた授業研究会の実施、家庭学習習慣を定着させるための取組 ・家庭と連携した基本的な生活習慣の確立と、自分の言葉で表現できる力の育成、規範意識の向上による問題事象の未然防止 ・学級経営の充実や相談活動の充実など不登校の解消に向けた取組の推進と組織的生徒指導の研修の推進 ・信頼される学校づくりに向けた教職員の資質向上と、地域や家庭へのHPやたよりによる情報発信 | | |

(別紙様式1)

平成24年度 学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立久美浜中学校〕

| 学校経営方針(中期経営目標) | | 前年度の成果と課題 | 本年度学校経営の重点(短期経営目標) |
|-------------------------------|---|---|---|
| 「ふるさとを愛し、夢を持ち、賢く逞しく生き抜く生徒の育成」 | | ○生徒支援を基盤においた生徒指導・学習指導の推進 ○問題事象に対する迅速かつ組織的で丁寧な指導 ○基礎学力の定着と授業力の向上に向けた授業改善 △不登校、不登校傾向生徒の解消に向けた取組の強化 | 「開かれた学校づくり」「確かな学力の育成」「豊かな人間性の育成」について重点方策を提示し、組織的に取り組むことで、生徒・保護者・地域から信頼される学校づくりをめざす。 |
| 評価項目 | 重点目標 | 具体的方策 | 成果と課題(自己評価) |
| 確かな学力の育成 | (1) 授業実践力の向上 (2) 言語活動の充実 (3) 読書活動の充実 (4) 学習習慣の確立 | ①ユニバーサルデザインに基づき、誰もが分かる授業づくりに向け視覚化・構造化・協働化の視点を取り入れる。 ②思考力・判断力・表現力等を育む学習活動を展開する。 ③文系、理数系、芸術系の三系統別部会が創造的に研究を深め、授業改善につなげる。 ④読書意欲を喚起するため、選書会や帯作り、読み聞かせ等を工夫する。 ⑤久美中検定を授業と連動させ、基礎・基本の徹底を図る。 ⑥生徒実態に即した家庭学習のあり方を検討・指導する。 | ○系統別部会の授業研究により、授業形態や資料・発問の工夫による意見発表等、ユニバーサルデザインに基づく授業づくりを推進することができた。 ○研究授業を計画的に実施することができた。 ○久美中検定を1学期から粘り強く実施し、低学力層の学習意欲も高まり、教科指導にも効果があった。 △家庭学習の実態を把握し、週末課題を計画的に位置付けたが、学習習慣の確立等、自主的な取組には課題がある。 |
| 豊かな人間性の育成 | (1) 道徳教育をすべての教育活動で展開 (2) 人権・規範意識の醸成 (3) いじめの未然防止と解消 (4) 不登校・不登校傾向生徒の未然防止と解消 (5) 積極的なボランティア活動の創造 | ①教師が生徒と関わる時間を増やし、信頼関係を構築する。 ②毎月、全校集会を実施し生徒の良さを教師が発表する。 ③学校・家庭生活の課題に対して様々な道徳教育を実践する。 ④総合的な学習の時間を活用し、社会人講話を通して自らを振り返らせ、望ましい生き方を追求させる。 ⑤問題事象等、課題と指導内容を明確にし、生徒指導部を中心に迅速かつ組織的に対応する。 ⑥教育相談部会(スクールカウンセラーを含む)の機能化を図り、課題を解決する。 ⑦特別活動を充実させ、リーダー層を中心に組織的な課題解決を追求させる。 ⑧主体的に取り組めるボランティア活動を創造する。 | ○人権や規範意識等、仲間関係に係る諸問題に対して迅速に対応し、生徒の内面を揺さぶる指導を展開することで、概ね落ち着いた雰囲気与生活させることができた。 ○社会人講話を実施し、講師の価値観や生き方に触れることで、自らの振り返りを促すことができた。 ○スクールカウンセラーと連携した不登校生徒別ケース会議の充実とともに、特別支援体制の充実が推進した。 ○生徒会本部役員を中心とし、行事への成就感や日常的な委員会活動を活性化させるなど成果を上げた。 △教師の人権意識を高める研修を実施する。 △保護者に生徒の実態を的確に知らせ、家庭教育力を高めるとともに、地域への働きかけ(啓発)を強める。 |

| | | | |
|----------------------|---|--|--|
| <p>体力の向上と健康安全の推進</p> | <p>(1) 食育指導の充実 (2) 部活動の充実と達成感の享受 (3) 緊急時対応訓練の充実 (4) 交通安全指導の徹底</p> | <p>①食育指導を充実させ、望ましい食生活と食習慣が身体に及ぼす影響について考えさせる。 ②教師の指導意欲を高め、部活動の活性化を図る。 ③緊急時対応の訓練を充実させる。(地震・津波・火災) ④日々の登下校時における交通指導と定期的に注意を呼びかける。(PTA本部・生活部との連携) 毎月、5日・15日・25日に教師による交通指導の実施</p> | <p>○栄養教諭と養護教諭が連携し、食育指導(「生活習慣病と食生活」)と個別指導の実施により、生徒の健康への関心・意識が高まった。 ○部活指導のあり方等、職員で交流・研修し、指導意欲が高められ、生徒は朝練習にも意欲的に取り組んだ。 △緊急時の対応マニュアルと訓練内容を工夫し、具体的な対応方法について更に研修する。</p> |
| <p>保護者・地域との連携</p> | <p>(1) 家庭や地域社会との連携 (2) 家庭の教育力の醸成</p> | <p>①良いことも悪いことも含め、生徒の成長に視点を置き、事実を積極的に伝え、家庭との連携に努める。 ②学校の取組や生徒の活動の様子を学級通信や学校だより、HP等に掲載し、教師の思いを伝える。 ③PTA本部・専門部活動を充実させ、保護者同士の連携を図る。 ④関係諸機関との連携を密にする。</p> | <p>○学校行事等への保護者・地域の関心は高く、行事や普段の取組を通して生徒の頑張りを発信することができた。 ○学校での教育活動内容を率直に伝え、協力を求めることができ、保護者アンケートでは良い評価を得た。 ○本年度はPTA本部が中心となり、久美浜おひさまクラブと連携し教育懇談会を実施し好評であった。 △小中連携の強化とともに町内諸団体との連携を密にし、子育てネットワークを作る。望ましい久美浜の児童生徒像を確認し、具体的な協働の取組を実施する。</p> |
| <p>特別支援教育の充実</p> | <p>(1) 生活実態・学習状況の把握分析と指導計画の充実 (2) 実態交流と具体的支援の検討</p> | <p>①特別な支援を必要とする生徒の実態を把握し、個に応じた目標・方針を明確にする。(個別の支援計画の作成) ②各教科、観点別評価C生徒への手立てを意識して指導する。 ③ソーシャルスキルトレーニングの研究授業等、教育のユニバーサルデザイン化を研究する。</p> | <p>○特別な支援を要する生徒について実態を把握し、校内研修を行うことで指導改善に生かした。 ○誰もが分かる授業づくりをめざした研究が進んだ。 △個別の支援計画作成に止まらず、実践・交流・改善のサイクルを更に作り上げる。(教育相談との連携強化)</p> |
| <p>小中一貫教育への取組</p> | <p>(1) 小中一貫教育への共通理解 (2) 小中の指導の連続性</p> | <p>①小中学校の教員が一堂に会して研修し共通理解を深める。 ②5つの部会(学力・生徒指導・教育相談・特別支援教育・特別活動)を設置し研修を深める。</p> | <p>○町内、小中学校の目指す教育目標の達成に向け、組織的に取り組むことで教職員の意識の高揚につながった。 △児童・生徒の交流を視野に入れた取組等を進める。</p> |
| <p>次年度に向けた改善の方向性</p> | <p>・三者会議、企画会議で学校課題を明確にし、組織的に取り組み、実践を踏まえて学校の課題解決を図る。 ・豊かな人間性と確かな学力を育成するため、道徳教育、生徒指導、特別活動、進路指導、総合的な学習の時間の連携・充実を図り、全体指導計画を見直す。 ・不登校生徒(傾向も含む)及び特別な支援を必要とする生徒について個別の支援を充実させるとともに、特別支援に視点をあてた教育を推進する。 ・三系統別部会を更に充実させ、「分かる・楽しい授業づくり」をめざす。 ・小中一貫教育を推進させ、学習習慣の確立、言語活動・表現力の充実、理数科への興味・関心の高揚についても連携を強化し、具体的実践に結びつける。 ・「授業と学力」「家庭学習の重要性」について生徒・保護者に分かりやすく説明し、保護者の協力を求めながら学校との信頼関係を確立する。 また、地域との連携を深め、望ましい久美中生徒像を共通理解・確認するとともに、学校再配置後を円滑に進め、地域に根ざした学校づくりを創造する。</p> | | |

平成24年度 学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立高龍中学校〕

| 学校経営方針(中期経営目標) | | 前年度の成果と課題 | 本年度学校経営の重点(短期経営目標) |
|------------------|---|---|--|
| 1 創意・工夫した教育課程の編成 | | 1 創意ある教育課程の編成 ○ 高龍中学校教育プロジェクトの研究を更に工夫改善した。 | 1 学校運営会議を核とした学校運営の推進 (1) 週1回会議を持ち、学校の実態、課題、課題解決の方策を決定し、機動的な学校運営を推進する。 |
| 2 学力の充実・向上 | | 2 学力の充実・向上 △ 府学力診断テスト・CRT等から学力に課題がある。 | 2 学力の充実・向上 (1) 基礎的な知識・技能の習得 |
| 3 心の教育の充実 | | 3 心の教育の充実 ○ 「はあとほっとタイム」実施方法等の改善によって規範意識が高まった。 | 3 豊かな人間性の育成 (1) 教育相談機能の充実(不登校の解消) |
| 4 特別支援教育の推進 | | △ 2年生の不登校生徒の解消を図る。 | 4 特別支援教育の充実 障害ある生徒一人一人の教育ニーズに応じた教育支援 |
| 5 開かれた学校づくり | | 4 特別支援教育の推進 △ 個別支援計画による具体的な指導に課題が残った。 | 5 開かれ、信頼される学校づくり (1) 学校・家庭・地域社会の連携の充実 (2) 学校評価の充実 |
| 5 開かれた学校づくり | | 5 開かれた学校づくり ○ 学校評価を保護者や関係者に公開し、評価を得た。 | |
| 評価項目 | 重点目標 | 具体的方策 | 成果と課題(自己評価) |
| 教育課程 学習指導 | ○ 学力の充実・向上(重点課題) ・学力実態の把握と課題の明確化 ・基礎的な知識・技能の取得 ・思考力、判断力、表現力の育成 ・家庭との連携 ・小中学校の連携 | ○ 授業改善の推進 ・校内授業研を学期に2回実施 ・久美浜小中連絡会の活用 ○ 学力の充実・向上の取組の推進 ・数学と英語では習熟度別授業の実施 ・家庭学習の定着指導(スケジュールノート、課題の提示、点検) ・ふりかえりスタディ・長期休業中の補充指導の実施 ○ 若い教師の授業力の向上 ・授業実践開発講座への参加 | ○校区の小中学校で合同授業研究会を2回実施し、課題を共有し授業改善を図った。 ○若手の教師を授業力実践教育に参加させたり、また総合教育センターの講座や教科の研究発表会に参加させ授業力を高めた。 △客観的なデータの分析・校内授業研が計画通りに実施ができなかったこと等により、学力向上が進まなかった。 △家庭学習の内容面の充実により、授業と家庭学習の一体化を図る。 |
| 生徒指導 | ・不登校の未然防止と解消 ・生徒理解を推進するための機会の設定 ・規範意識の高揚 ・自己肯定感の向上 ・情報の共有化と組織的な対応 ・生徒の自主性・自発性の育成 | ・生徒の実態把握と組織的な対応をするため、生徒指導部会・教育相談部会・運営会議の定期的開催 ・規範意識・自尊感情の向上に資するため、「はあとほっとタイム」「夏みかんの日」の工夫・改善 ・三者懇談会の年2回の実施 ・特別活動の見直し(生徒会活動・学級活動) ・日常の教育相談の充実と教育相談期間の設定 ・SC、心の教室相談員、関係機関との連携強化 | ○メール等で生徒間のトラブルも発生したが、生徒指導部会を持ち、指導の方向性を確認し保護者と連携を図り早期に解決した。 ○学校の組織的な動きと保護者の連携の中で、3年生の生徒が教室に戻れ、不登校の状況が改善した。 ○「はあとほっとタイム」・「夏みかんの日」の取組で自己肯定感の醸成に繋がった。 △窃盗や物隠しがあり、規範意識が十分育っていない。 △人間関係の構築に視点をあてた指導を工夫する必要がある。 |

| | | | |
|---------------|--|---|--|
| 健康（体育）・安全 | <ul style="list-style-type: none"> ・登下校時の安全確保 ・健康安全意識の高揚 | <ul style="list-style-type: none"> ・交通安全徹底のため、PTA 会員・教職員の毎朝の立ち番、放課後の教職員立ち番を年間通して実施 ・「夏みかんの日」の取組の継続発展 ・避難訓練、非行防止教室の実施 ・性教育、薬物乱用防止教室の実施 ・「AED」の教職員の研修 | <p>○教職員・PTA 会員の安全への協力体制を確立し、教職員・PTA 会員の毎日の交通立ち番等により、登下校時の大きな事故はなかった。</p> <p>○夏みかんの日の集会で命の大切さや交通安全の励行・学校生活の見直しに繋げた。</p> <p>△不注意による怪我がよくある。</p> |
| 特別支援教育 | <ul style="list-style-type: none"> ・障害のある生徒一人一人の教育ニーズに応じた教育支援 ・コーディネーターを中心とした校内体制の確立 | <ul style="list-style-type: none"> ・特別な支援を必要とする生徒の実態把握と対策 ・個別の指導計画の作成・実践・評価 ・特別支援教育の理解を深めるため教職員研修の充実 | <p>○就学指導委員会と教育相談部が連携し、教育的ニーズを把握し保護者と連携・協力した取組を進めた。</p> <p>○校内研で個別指導計画を研修し、支援学級の授業改善を図った。</p> <p>△通常学級在籍生徒の具体的な支援を図る体制を確立する。</p> |
| 進路指導 | <ul style="list-style-type: none"> ・希望進路の実現 ・進路学習の充実 | <ul style="list-style-type: none"> ・府中研進路研究大会を活用した進路指導の充実 ・年間指導計画に基づいた系統的な進路指導 ・体験学習の実施と公立高校入試制度の学習 ・計画的な進路相談 | <p>○全学年に入試制度、高校制度の説明を実施し、進路実現の道筋を理解させた。</p> <p>○外部講師による「人の生き方」の講話等により、体験学習に意欲的に取り組もうとする生徒が増えた。</p> <p>△体験だけにとどまらず、今後どのように生かしていくかの指導が弱かった。</p> |
| 開かれ、信頼される学校作り | <ul style="list-style-type: none"> ・学校・家庭・地域社会の連携の強化 ・学校評価の充実 ・家庭の教育力の向上 ・学校再配置の円滑な取組の実施 | <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育の情報発信のために、学校公開月2回と学校だより、学級だより、進路便り等の定期的な発行 ・地域の行事への積極的な参加 ・学校評議員、民生児童委員との定期的な懇談 ・学校評価（自己評価）の地域・保護者へ発信 ・家庭の教育力の向上を目指し、思春期の子育てについての教育講演会の工夫 ・学校づくり準備協議会、久美浜中学校、PTAとの綿密な連携 | <p>○学校だよりなどの配布・回覧、HP等により積極的な情報提供を進めた。また学校教育に保護者や地域の方から積極的な協力を得た。</p> <p>○職場体験学習では、地域の方に大変お世話になり、生徒にとって素晴らしい体験になった。</p> <p>○学校再配置に関わる全ての人々が協力し、支え合う中で、批判的な意見は出ず、スムーズに行くことができた。</p> <p>△学校評価の公表方法を改善し、多くの意見等を得ることで、今後の学校教育を改善する。</p> |
| 次年度に向けた改善の方向性 | <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育活動の核となる教育計画について、教職員の意識改革を図る。そして、生徒の実態を踏まえた教職員の英知を集めた教育計画を策定する。 ・若手の人材育成が急務になっているので、管理職の授業参観・校内研修会の工夫等、学校体制で実施する。 ・広域テストで数値目標を設定し、学力向上を図る。 ・何が学校の危機なのかを理解するため身近な教育活動から取り上げると共に、風通しの良い職場を作る。 | | |